

3. 調査、予測及び評価の手法

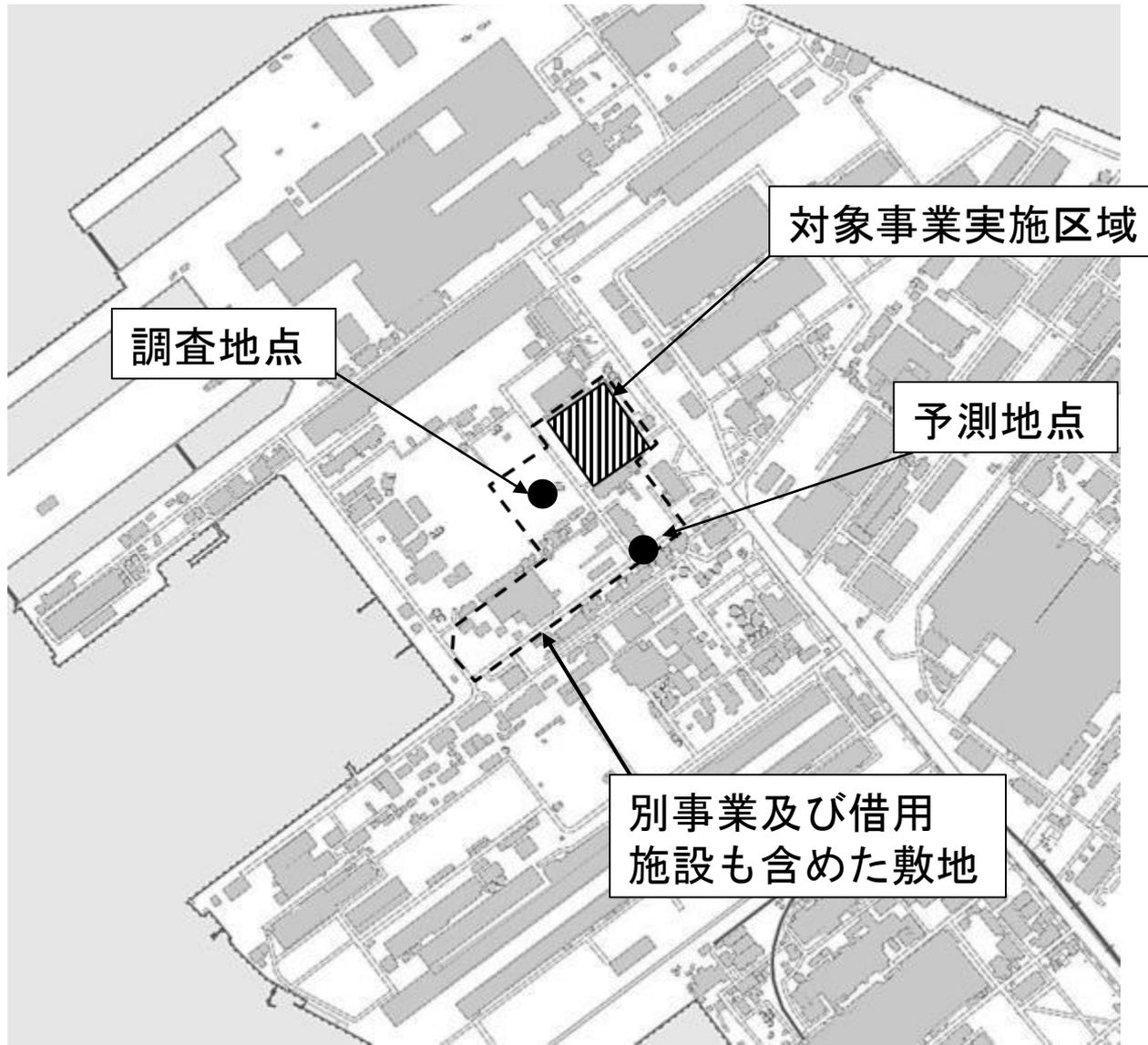
調査等の手法（大気質：工事の実施）

・工事の実施による粉じん等の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	大気質の状況 （降下ばいじん量）	対象事業実施区域1地点	重量法 （ダストジャーによる採取）	1ヶ月×4季
	気象の状況 （風向・風速）		風向・風速計による自動観測	1年間連続
予測	降下ばいじん量	別事業の南東側敷地境界	面整備事業環境影響評価技術マニュアルを参考に季節別に予測	別事業も含めた建設機械による影響が最も大きくなる時期
評価	降下ばいじん量	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		「降下ばいじんに係る参考値：10 t/km ² /月」（面整備事業環境影響評価技術マニュアル）と、予測結果を対比		

調査等の手法（大気質：工事の実施）

- ・ 粉じん等及び地上気象の調査及び予測地点



調査等の手法（大気質：工事の実施）

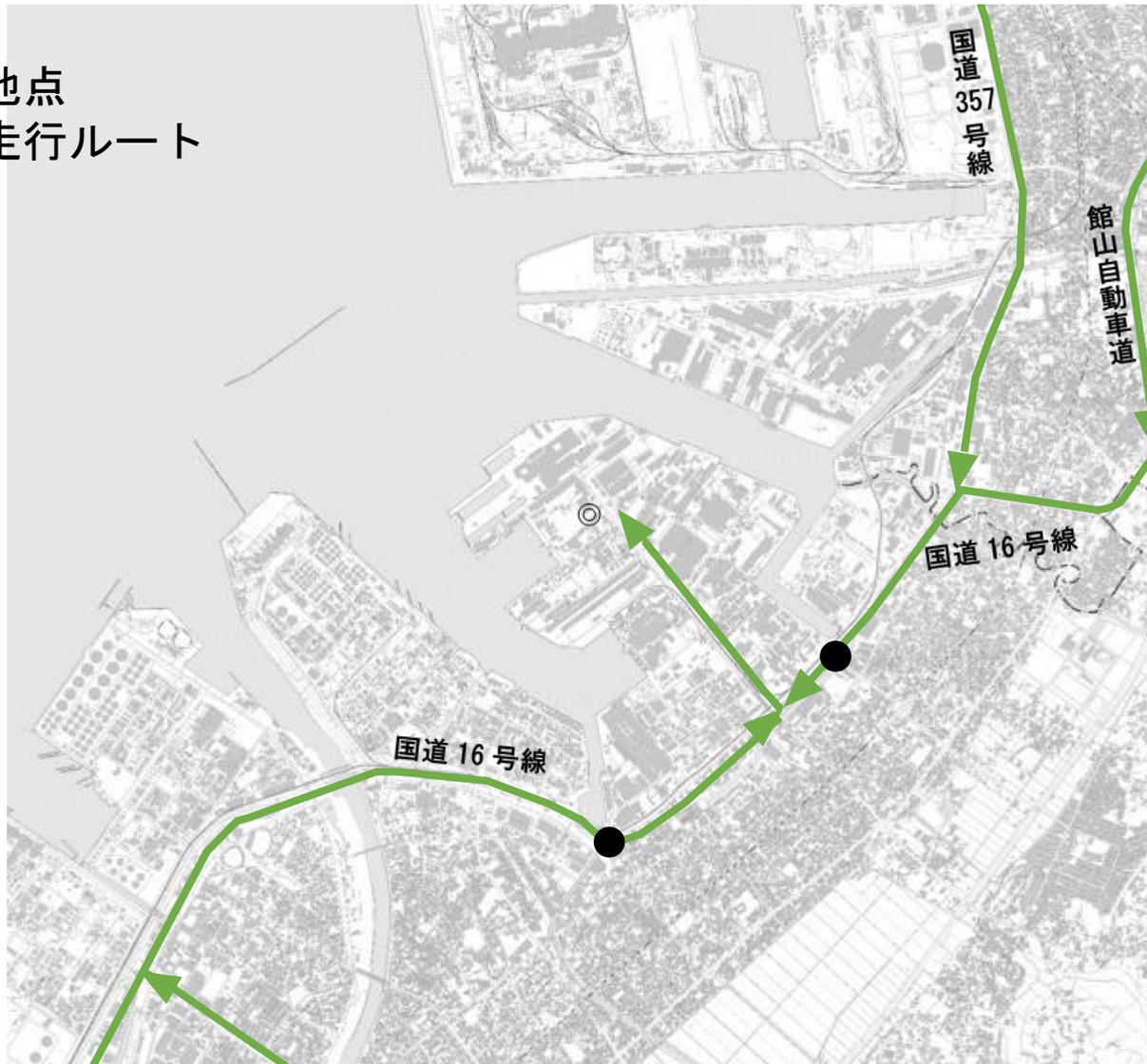
・ 工事用車両の走行による大気質への影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	大気質の状況 （窒素酸化物、 浮遊粒子状物質）	工事用車両走行 ルート （国道16号線） 沿道2地点	自動計測機 による自動観測	7日間×4季
	気象の状況 （風向・風速）	対象事業実施 区域1地点	風向・風速計 による自動観測	1年間連続
予測	工事用車両の走行に よる大気質 （二酸化窒素、 浮遊粒子状物質）	現地調査地点	大気拡散モデル による年間の 長期平均濃度 の予測	別事業も含めた 工事用車両台数 が最も多くなる 時期
評価	工事用車両の走行に よる大気質 （二酸化窒素、 浮遊粒子状物質）	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		予測結果（二酸化窒素は日平均値の年間98%値、浮 遊粒子状物質は日平均の2%除外値）と環境基準等 との対比		

調査等の手法（大気質：工事の実施）

・ 道路交通大気質の調査地点

- 調査地点
- 車両走行ルート



調査等の手法（大気質：存在・供用）

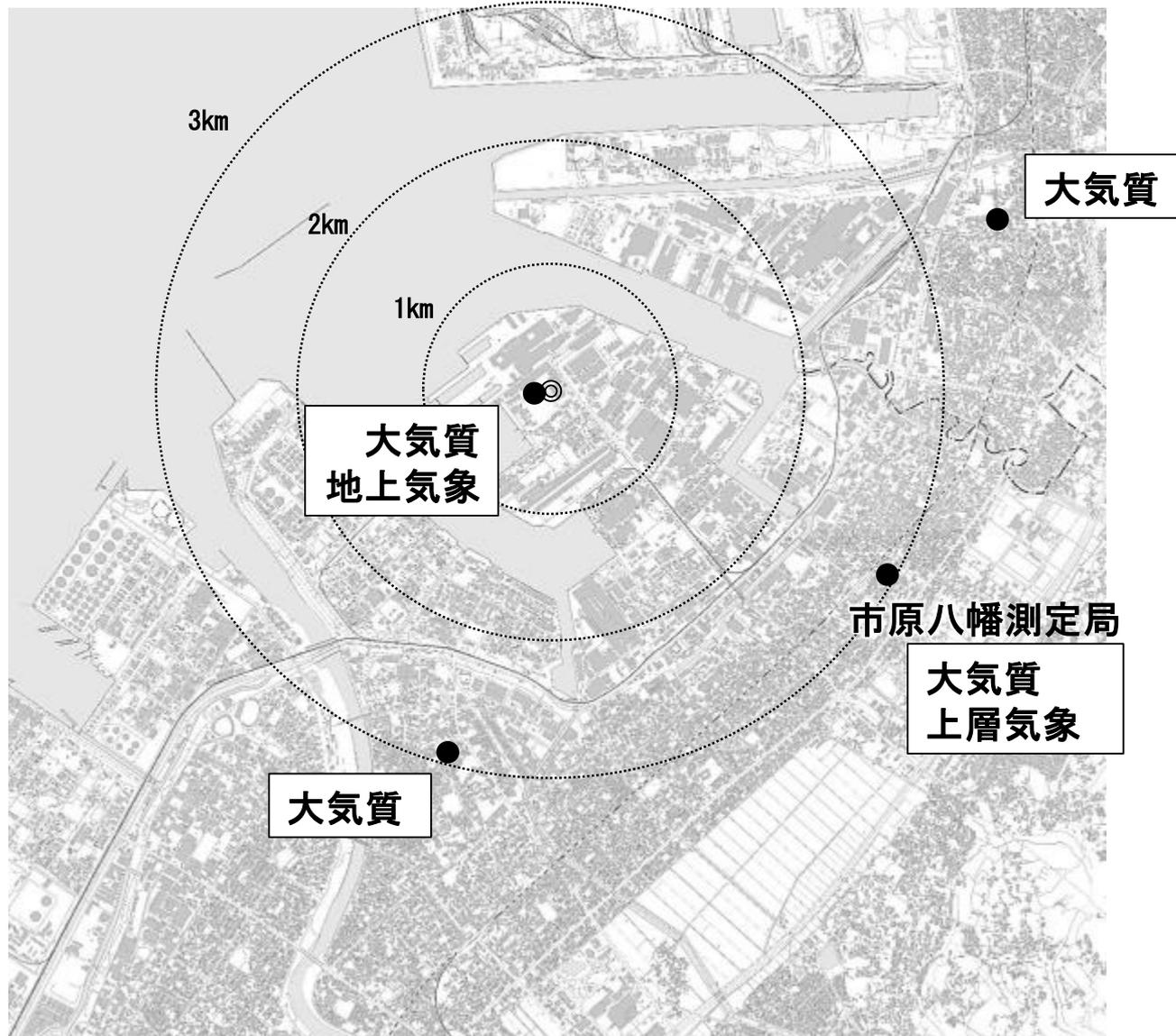
・施設の稼働に伴う大気質への影響（調査）

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	大気質の状況 （二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、塩化水素、水銀、ダイオキシン類）	対象事業実施 区域1地点 周辺地域3地点	自動計測機による自動観測 測定マニュアル等による方法	7日間×4季
	地上気象の状況 （風向・風速、気温・湿度、日射量・放射収支量）	対象事業実施 区域1地点	風向・風速計による自動観測	1年間連続
	上層気象 （風向・風速、気温）	市原八幡測定局 付近（羽田空港の特別管制区域外）	GPSゾンデによる観測	7日間×4季 （3時間毎）

調査等の手法（大気質：存在・供用）

・ 施設の稼働に伴う大気質への影響（調査）

● 調査地点



調査等の手法（大気質：存在・供用）

・施設の稼働に伴う大気質への影響（予測）

項目	地域・地点	基本的な手法	時期等	
予測	施設の稼働に伴う大気質			
	<ul style="list-style-type: none"> 長期平均濃度（年平均値等） （二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、水銀、ダイオキシン類） 	<ul style="list-style-type: none"> 予測地域の面的な濃度分布 最大着地濃度地点、現地調査地点、高層住宅所在地 	大気拡散モデルによる年間の長期平均濃度の予測	計画施設の稼働が定常状態になった時期（1年間）
	<ul style="list-style-type: none"> 短期高濃度（1時間値） （二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素） 	最大着地濃度地点、現地調査地点、高層住宅所在地	気象条件に対応した大気拡散モデルによる短期高濃度の予測	計画施設の稼働が定常状態になった時期で予測条件に設定した気象条件の出現時

調査等の手法（大気質：存在・供用）

・施設の稼働に伴う大気質への影響（評価）

項目		基本的な手法
評価	施設の稼働に伴う大気質	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す
	・長期平均濃度 （二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、水銀、ダイオキシン類）	予測結果（二酸化窒素は日平均値の年間98%値、二酸化硫黄、浮遊粒子状物質は日平均の2%除外値、水銀、ダイオキシン類は年平均値）と環境基準等との対比
	・短期高濃度 （二酸化硫黄、二酸化窒素、浮遊粒子状物質、塩化水素）	予測結果（1時間値）と環境基準等との対比

調査等の手法（大気質：存在・供用）

・ 廃棄物運搬車両の走行による大気質への影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	大気質の状況 （窒素酸化物、 浮遊粒子状物質）	廃棄物運搬車両 走行ルート （国道16号線） 沿道2地点	自動計測機 による自動観測	7日間×4季
	気象の状況 （風向・風速）	対象事業実施 区域1地点	風向・風速計 による自動観測	1年間連続
予測	廃棄物運搬車両の 走行による大気質 （二酸化窒素、 浮遊粒子状物質）	現地調査地点	大気拡散式によ る年間の長期 平均濃度の予測	別事業も含めた 計画施設の稼働 が定常状態に なる時期
評価	工事用車両の走行に よる大気質 （二酸化窒素、 浮遊粒子状物質）	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		予測結果（二酸化窒素は日平均値の年間98%値、浮 遊粒子状物質は日平均の2%除外値）と環境基準等 との対比		

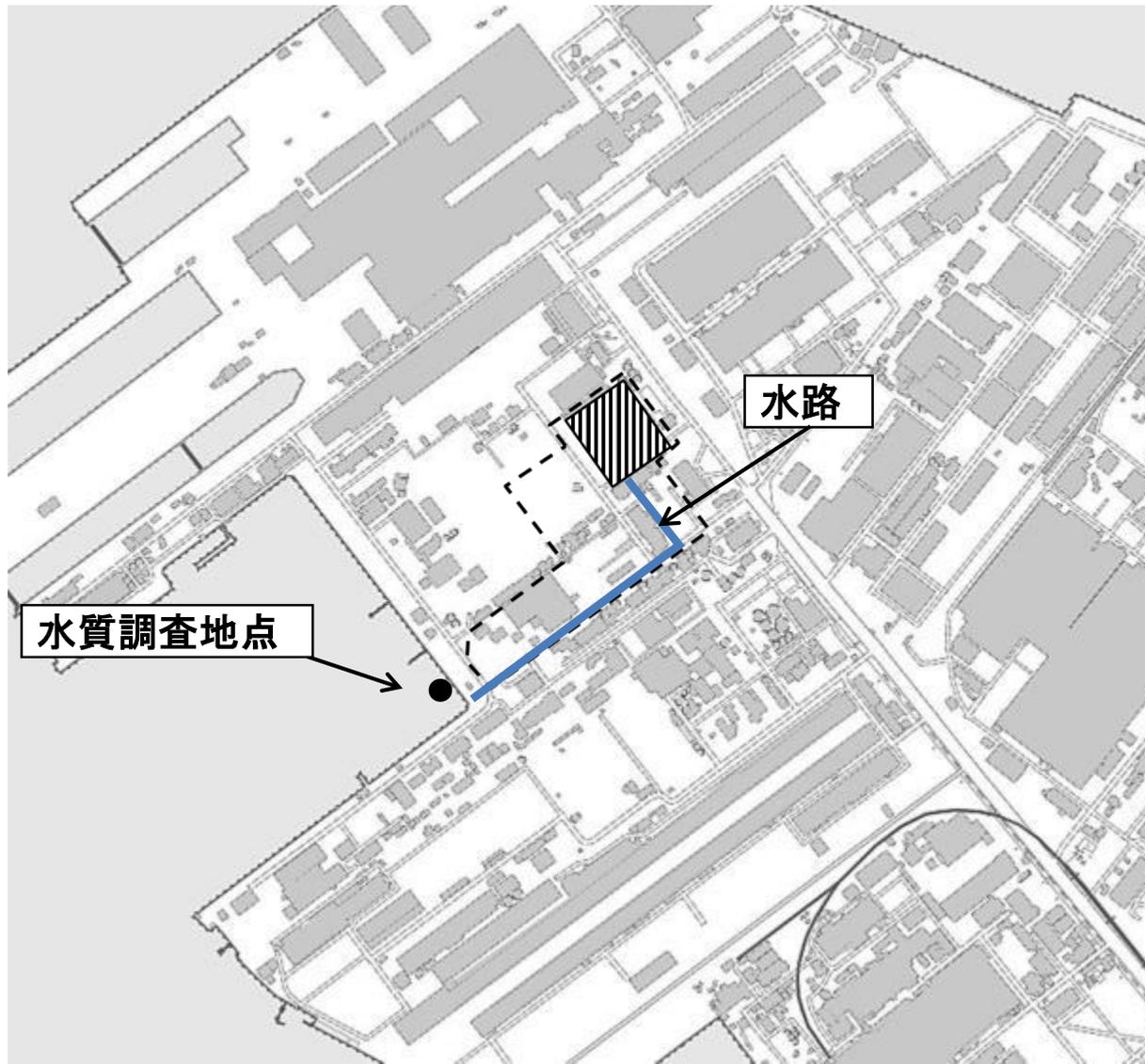
調査等の手法（水質：工事の実施）

・工事の実施による水質への影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	水質等の状況 （水素イオン濃度、 浮遊物質、 一般観測項目）	放流先海域 1地点採水	水質調査方法に 準拠した採水	降雨時2日 （1日に2時間 おきに5回採 水）
	土粒子の状況 （粒度組成）	対象事業実施区 域内の表層 2地点	沈降試験 粒度分析	1回
予測	水素イオン濃度、 浮遊物質	調査地点	定量的予測	別事業も含めた 工事排水の影響 が最も大きくな る時期
評価	水素イオン濃度、 浮遊物質	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		規制基準、現況水質、環境基準等と、予測結果を 対比		

調査等の手法（水質：工事の実施）

- 水質の調査地点



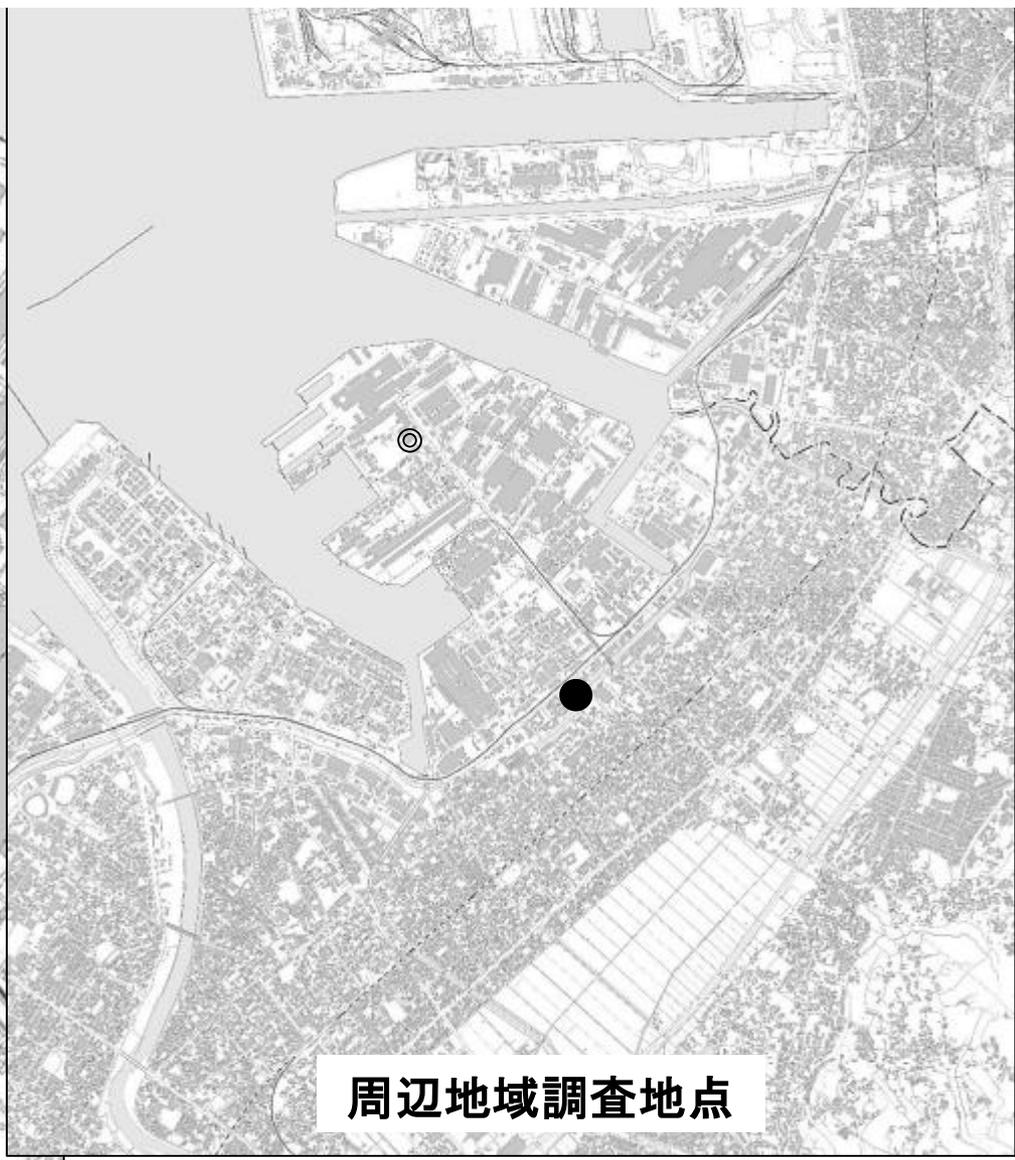
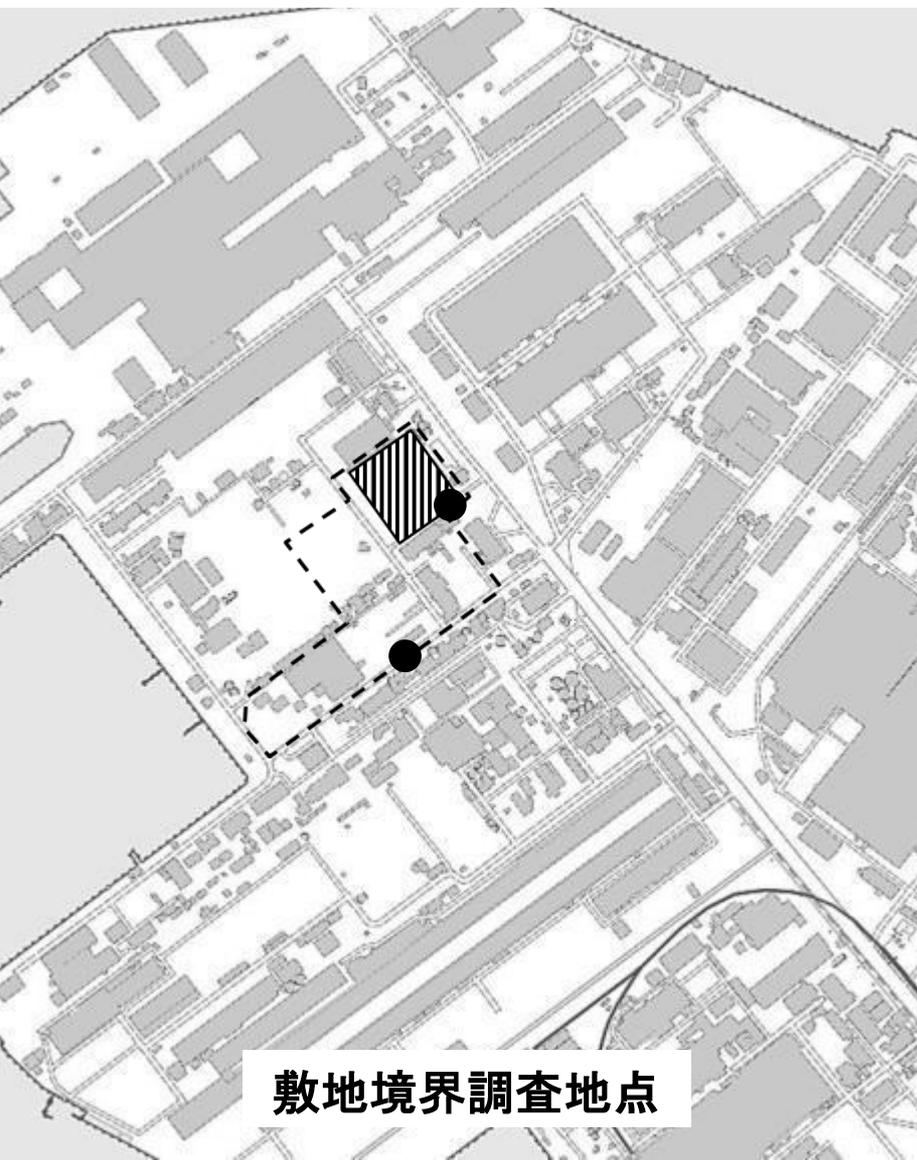
調査等の手法（騒音・超低周波音：工事の実施）

・工事の実施による騒音の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	騒音の状況 （環境騒音レベル）	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域及び別事業敷地境界 2地点 周辺地域 1地点 	騒音レベル計による測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
予測	建設機械の稼働に伴う騒音レベル	<ul style="list-style-type: none"> 約100mの範囲 敷地境界上の最大地点 	伝搬理論式	別事業も含めた建設機械による影響が最も大きくなる時期
評価	建設機械の稼働に伴う騒音レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す 規制基準と予測結果との対比		

調査等の手法（騒音・超低周波音：工事の実施）

・騒音の調査地点



調査等の手法（騒音・超低周波音：工事の実施）

・工事用車両の走行による騒音の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	騒音の状況 （道路交通騒音 レベル）	工事用車両走行 ルート （国道16号線） 沿道2地点	騒音レベル計に よる測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
	道路、交通の状況 （道路構造等、 自動車交通量、 走行速度）		現地調査	
予測	工事用車両の走行に 伴う等価騒音レベル	調査地点	（社）日本音響学 会の提案式	別事業も含めた 工事用車両台数 の発生が最も多 くなる時期
評価	工事用車両の走行に 伴う等価騒音レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		環境基準と予測結果との対比		

注）工事用車両の走行に伴う超低周波音の予測・評価は行わない。

調査等の手法（騒音・超低周波音：存在・供用）

・施設の稼働による騒音の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	騒音の状況 (環境騒音レベル)	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域及び別事業敷地境界 2地点 周辺地域 1地点 	騒音レベル計による測定	平日、休日の 2日 (24時間連続)
予測	計画施設の稼働に伴う騒音レベル	<ul style="list-style-type: none"> 約100mの範囲 敷地境界上の最大地点 周辺地域の調査地点 	伝搬理論式	別事業も含めた計画施設の稼働が定常状態となる時期
評価	計画施設の稼働に伴う騒音レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す 規制基準と予測結果との対比		

調査等の手法（騒音・超低周波音：存在・供用）

・施設の稼働による超低周波音の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	超低周波音の状況 （超低周波音、 低周波音）	対象事業実施区 域及び別事業敷 地境界 2地点	低周波音の測定 方法に関するマ ニュアルによる 測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
予測	計画施設の稼働に 伴う超低周波音	敷地境界上の 最大地点	現地調査結果の 参照、類似事例 の引用	計画施設の稼働 が定常状態とな る時期
評価	計画施設の稼働に 伴う超低周波音	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す 科学的知見等を参考		

調査等の手法（騒音・超低周波音：存在・供用）

・ 廃棄物運搬車両の走行による騒音の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	騒音の状況 （道路交通騒音 レベル）	廃棄物運搬車両 走行ルート （国道16号線） 沿道2地点	騒音レベル計に よる測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
	道路、交通の状況 （道路構造等、 自動車交通量、 走行速度）		現地調査	
予測	廃棄物運搬車両の 走行に伴う等価騒音 レベル	調査地点	（社）日本音響学 会の提案式	別事業も含めた 計画施設の稼働 が定常状態とな る時期
評価	廃棄物運搬車両の 走行に伴う等価騒音 レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		環境基準と予測結果との対比		

注）廃棄物運搬車両の走行に伴う超低周波音の予測・評価は行わない。

調査等の手法（振動：工事の実施）

・工事の実施による振動の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	振動の状況 （環境振動レベル）	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域及び別事業敷地境界 2地点 周辺地域 1地点 	振動レベル計による測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
予測	建設機械の稼働に伴う振動レベル	<ul style="list-style-type: none"> 約100mの範囲 敷地境界上の最大地点 	伝搬理論式	別事業も含めた建設機械による影響が最も大きくなる時期
評価	建設機械の稼働に伴う振動レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す 振動規制法、市原市生活環境保全条例に基づく規制基準等と予測結果との対比		

調査等の手法（振動：工事の実施）

・ 工事中車両の走行による振動の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	振動の状況 （道路交通振動レベル）	工事中車両走行ルート （国道16号線） 沿道2地点	振動レベル計による測定	平日、休日の2日 （24時間連続）
	地盤及び土質の状況 （地盤卓越振動数）		現地調査	1回（大型車両の単独走行10台程度）
	道路、交通の状況 （道路構造等、自動車交通量、走行速度）		現地調査	平日、休日の2日 （24時間連続）
予測	工事中車両の走行に伴う振動レベル	調査地点	「道路環境影響評価の技術手法」に示されている式	別事業も含めた工事中車両台数の発生が最も多くなる時期
評価	工事中車両の走行に伴う振動レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す要請限度と予測結果との対比		

調査等の手法（振動：存在・供用）

・施設の稼働による振動の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	騒音の状況 （環境振動レベル）	<ul style="list-style-type: none"> 対象事業実施区域及び別事業敷地境界 2地点 周辺地域 1地点 	振動レベル計による測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
予測	計画施設の稼働に伴う振動レベル	<ul style="list-style-type: none"> 約100mの範囲 敷地境界上の最大地点 周辺地域の調査地点 	伝搬理論式	別事業も含めた計画施設の稼働が定常状態となる時期
評価	計画施設の稼働に伴う振動レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		振動規制法、市原市生活環境保全条例に基づく規制基準等と予測結果との対比		

調査等の手法（振動：存在・供用）

・ 廃棄物運搬車両の走行による振動の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	振動の状況 （道路交通振動レベル）	廃棄物運搬車両 走行ルート （国道16号線） 沿道2地点	振動レベル計による測定	平日、休日の 2日 （24時間連続）
	地盤及び土質の状況 （地盤卓越振動数）		現地調査	1回（大型車両 の単独走行10台 程度）
	道路、交通の状況 （道路構造等、 自動車交通量、 走行速度）		現地調査	平日、休日の 2日 （24時間連続）
予測	廃棄物運搬車両の 走行に伴う振動レベル	調査地点	「道路環境影響評価の技術手法」に示されている式	別事業も含めた 計画施設の稼働 が定常状態となる 時期
評価	廃棄物運搬車両の 走行に伴う振動 レベル	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す 要請限度と予測結果との対比		

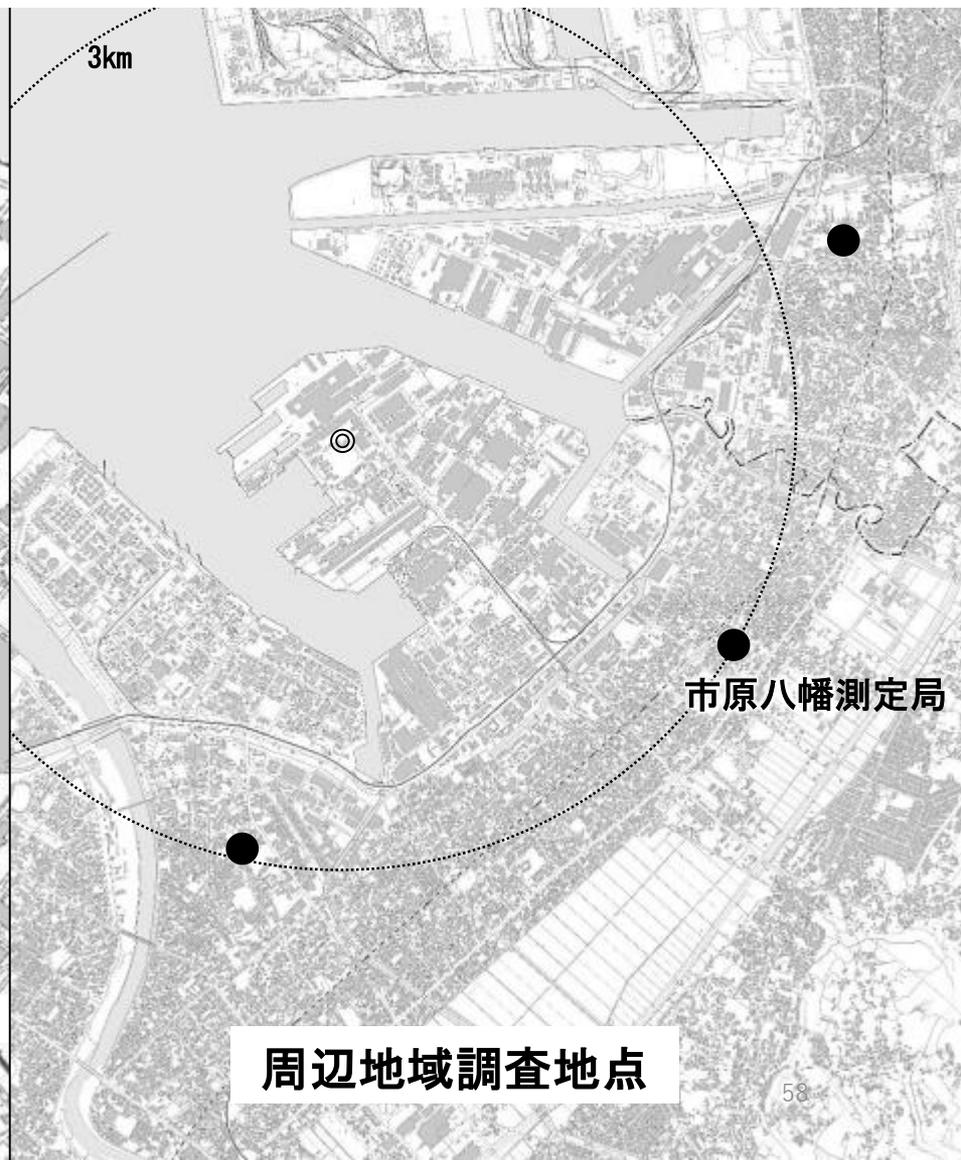
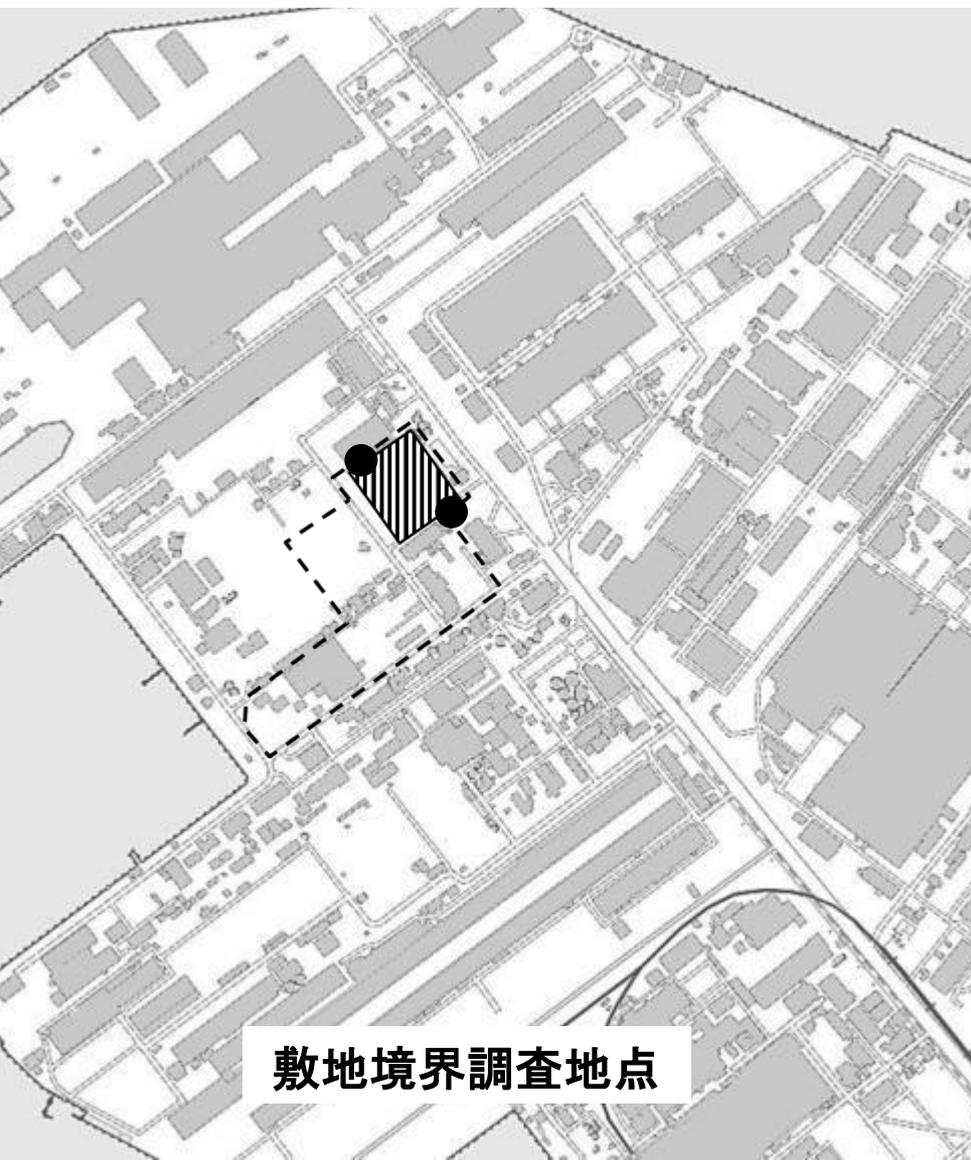
調査等の手法（悪臭：存在・供用）

・施設からの悪臭の影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	悪臭の状況 （特定悪臭物質：22 項目、臭気濃度 （臭気指数））	・敷地境界2地点 （風上・風下） ・周辺地域3地点 （臭気指数）	現地調査	2回 （夏季・冬季、 各1回）
予測	計画施設に搬入・貯留される廃棄物の影響	調査地点	類似事例の参照等による定性的予測	計画施設の稼働が定常状態となる時期
	排気塔排出ガスによる影響	最大着地濃度地点、調査地点	大気拡散モデルによる短期高濃度の予測	
評価	・計画施設に搬入、貯留される廃棄物の影響 ・排気塔排出ガスによる影響	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		規制基準と予測結果との対比		

調査等の手法（悪臭：存在・供用）

・ 悪臭の調査地点



調査等の手法（土壌：工事の実施）

・工事による土壌汚染

	項目	地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	土壌汚染の状況 （土壌汚染に係る環境基準項目：29項目、ダイオキシン類）	対象事業実施 区域1地点 （廃棄物ピット 予定箇所）	5地点混合方式 により採取	1回
	地下水水質の状況 （地下水水質に係る環境基準項目：28項目、 ダイオキシン類）	対象事業実施 区域2地点	地下水位観測井 戸の水を採取	2回 （夏季・冬季、 各1回）
予測	土地の改変、土壌の 搬出等に伴う土壌汚染 物質の影響	調査地点	類似事例の参照 等による定性的 予測	土地の改変等に 伴う土壌汚染物 質の影響が生じ る時期
評価	土地の改変、土壌の 搬出等に伴う土壌汚 染物質の影響	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		環境基準等と予測結果との対比		

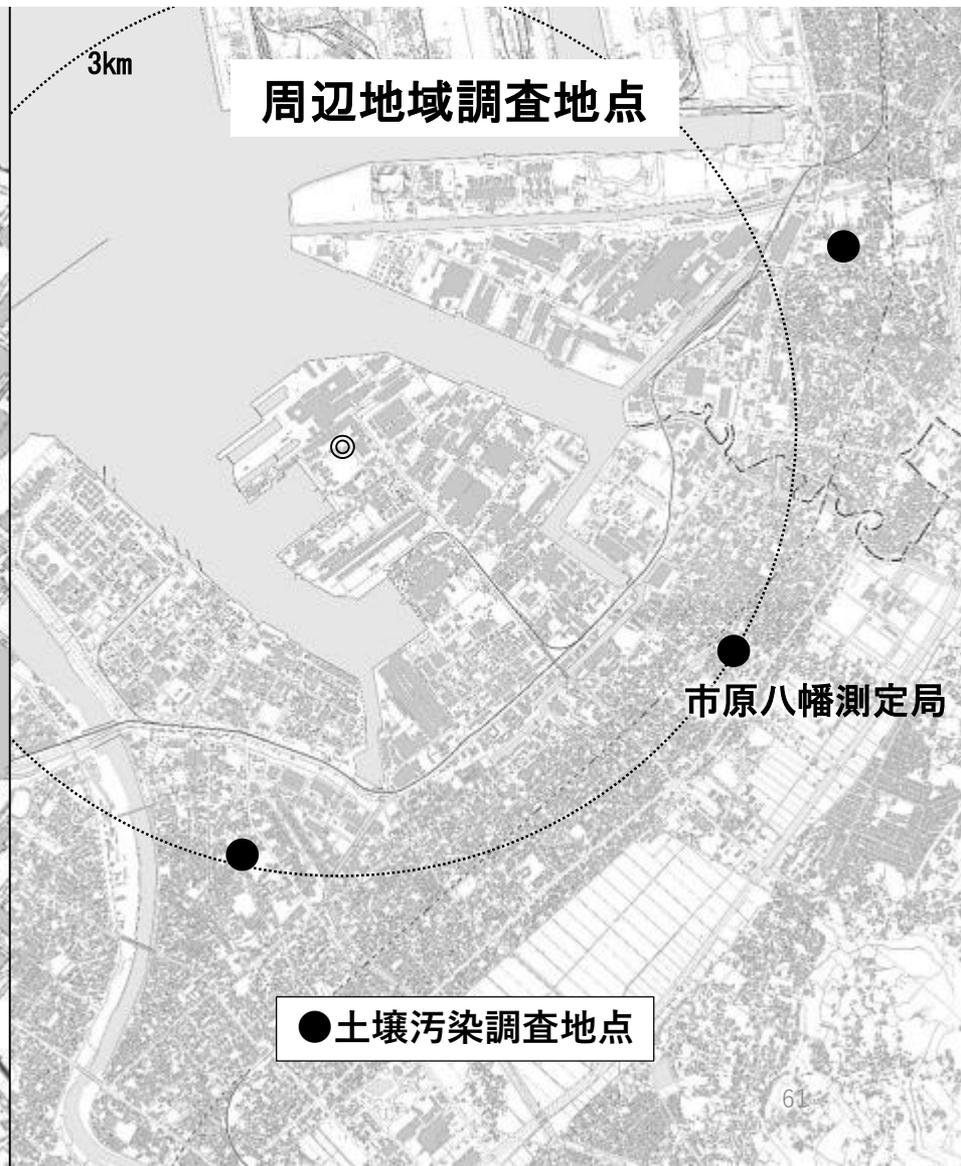
調査等の手法（土壌：存在・供用）

・ばい煙等の発生による土壌汚染

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	土壌汚染の状況 (ダイオキシン類)	対象事業実施 区域1地点 周辺地域3地点	5地点混合方式 により採取	1回
	気象の状況 (風向・風速、 気温・湿度、 日射量・放射収支 量)	対象事業実施 区域1地点	風向・風速計に よる自動観測	1年間連続
予測	排気塔排出ガスによる 土壌中のダイオキシン 類の濃度	調査地点	大気質の予測結果、 現地調査結果を参 照して推計	計画施設の稼働が 定常状態となる 時期
評価	排気塔排出ガスによる 土壌中のダイオキシン 類の濃度	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り 回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		環境基準等と予測結果との対比		

調査等の手法（土壌：工事の実施、存在・供用）

・土壌の調査地点



調査等の手法（景観：存在・供用）

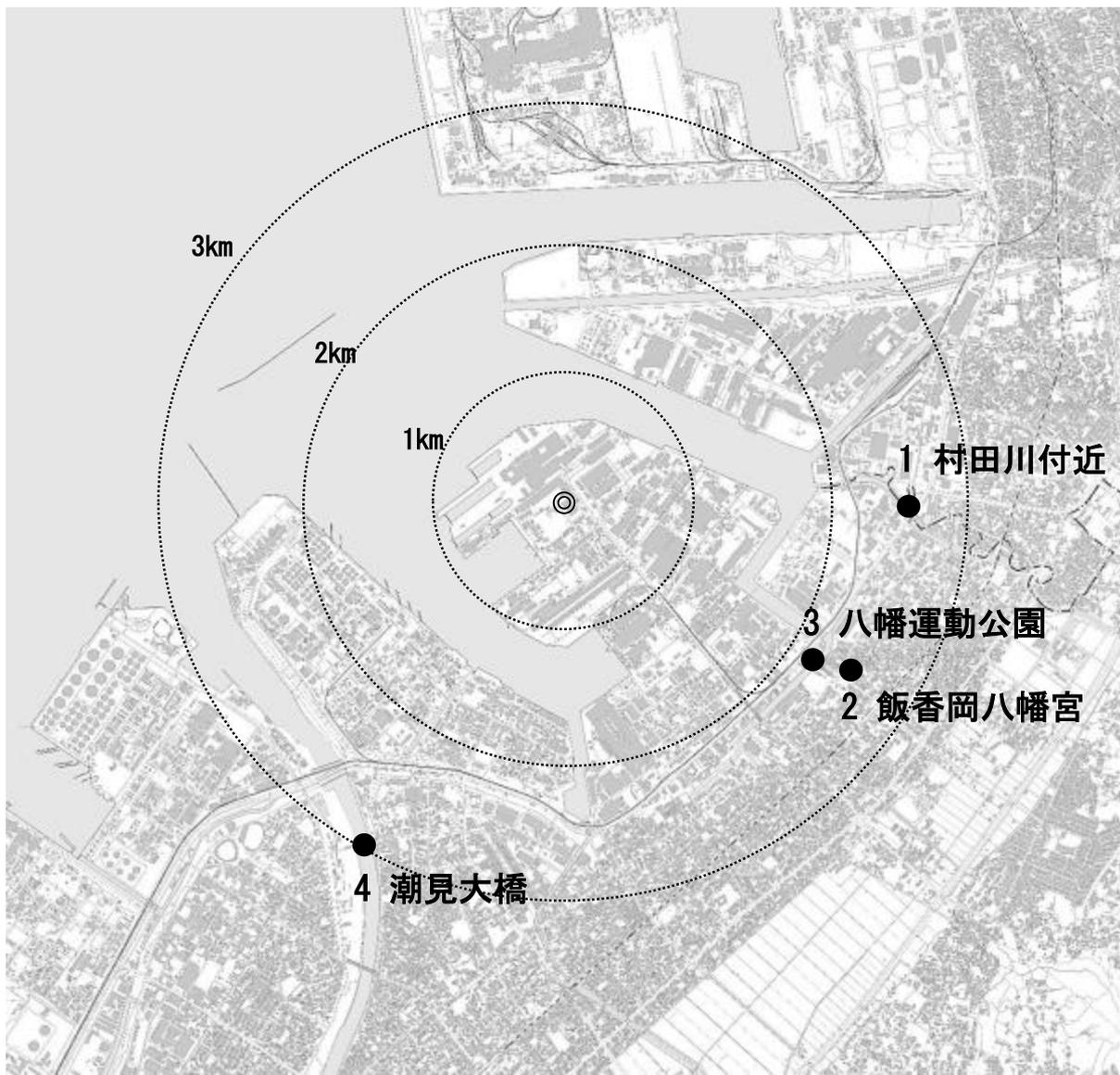
・ 施設の存在等による景観への影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	主要な眺望景観の状況	4地点	写真撮影	2回 (着葉期：6月～9月、 落葉期：11月～2月)
予測	主要な眺望点の眺望景観の変化、地域の景観特性の変化	調査地点	フォトモンター ジュ写真の作成	施設の供用開始後、 植栽等による修景が完了した時点
評価	主要な眺望点の眺望景観の変化、地域の景観特性の変化	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		
		市原市景観条例、市原市景観計画との整合性		

調査等の手法（景観：存在・供用）

・ 施設の存在等による景観への影響

● 調査地点



調査等の手法（触れ合い活動の場：工事の実施） 存在・供用）

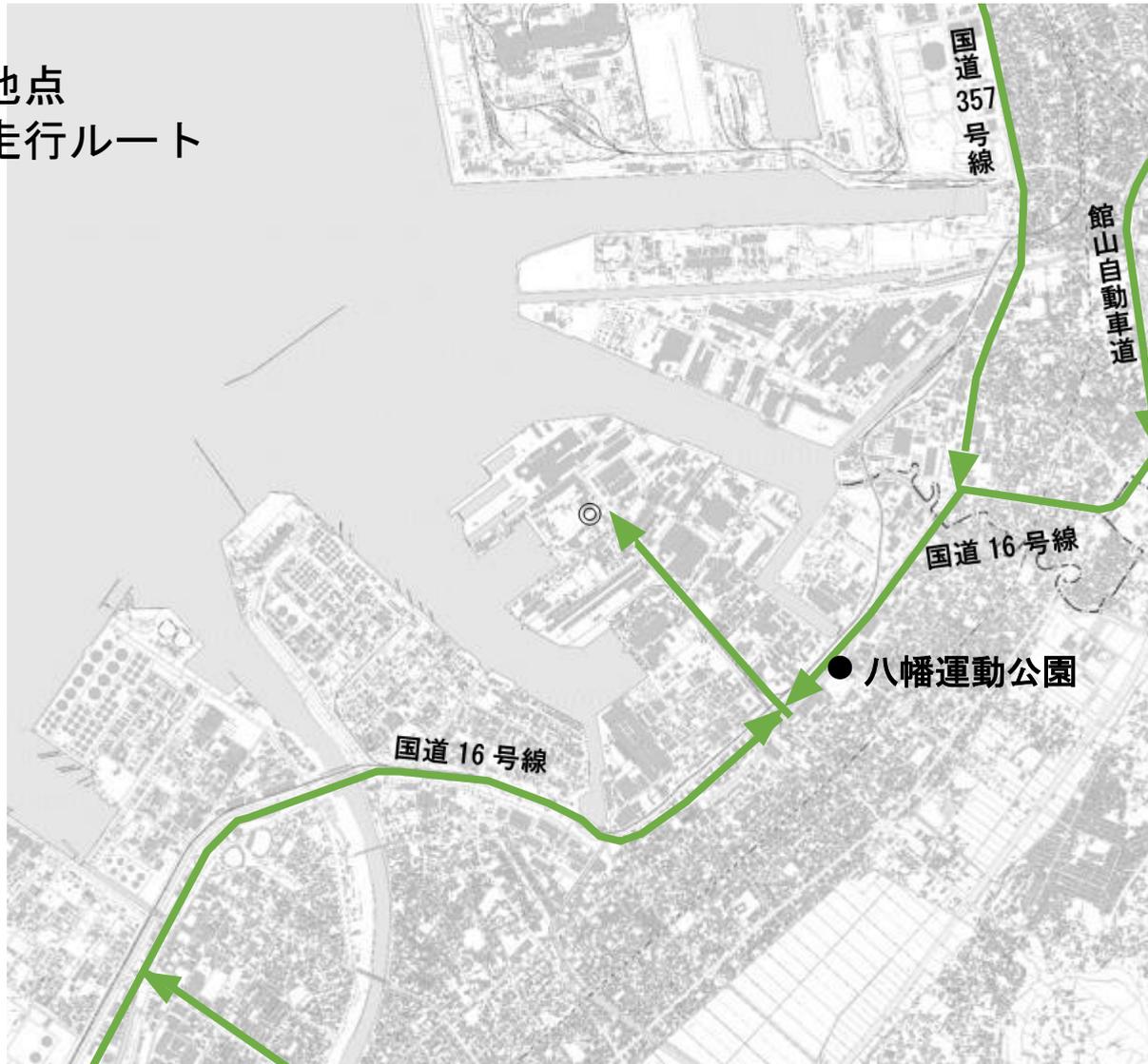
・ 工車用車両等の走行に伴う触れ合い活動の場への影響

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
調査	人と自然との触れ合い活動の場の状況、利用状況等	1 地点 (八幡運動公園)	現地踏査、 写真撮影	2 回 (休日・平日)
予測	工車用車両、廃棄物運搬車両の走行に伴う触れ合い活動の場の利用環境の変化	調査地点	事業内容、環境保全措置等を考慮して予測	工車用車両、廃棄物運搬車両が最も多くなる時点
評価	工車用車両、廃棄物運搬車両の走行に伴う触れ合い活動の場の利用環境の変化	事業者により対象事業に係る環境影響ができる限り回避又は低減されているかについて、見解を示す		

調査等の手法（触れ合い活動の場：工事の実施） 存在・供用）

・人と自然との触れ合い活動の場の調査地点

- 調査地点
- 車両走行ルート



調査等の手法（廃棄物：工事の実施）

・ 工事に伴う廃棄物

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	廃棄物の発生量、排出量、発生量の抑制量、有効利用量、最終処分量	対象事業実施区域	工事計画を基に発生源単位等を参考にして発生量を予測	工事中の全期間
評価	廃棄物の発生量、排出量、発生量の抑制量、有効利用量、最終処分量	廃棄物の発生量が事業者により実行可能な範囲で抑制されているかについて、見解を示す		

調査等の手法（廃棄物：存在・供用）

・施設の稼働による廃棄物

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	廃棄物の発生量、排出量、発生量の抑制量、有効利用量、最終処分量	対象事業実施区域	計画施設の稼働計画を基に発生量、排出量を予測	計画施設の稼働が定常状態になった時期の1年間
評価	廃棄物の発生量、排出量、発生量の抑制量、有効利用量、最終処分量	廃棄物の発生量が事業者により実行可能な範囲で抑制されているかについて、見解を示す		

調査等の手法（残土：工事の実施）

・ 工事による残土

項 目		地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	工事に伴い発生する発生土、区域外に搬出する残土の量	対象事業実施区域	工事計画を基に発生土の量、残土の量を予測	工事中の全期間
評価	工事に伴い発生する発生土、区域外に搬出する残土の量	残土の搬出量が事業者により実行可能な範囲で抑制されているかについて、見解を示す		

調査等の手法（温室効果ガス等：工事の実施）

・ 資材等の運搬に伴う温室効果ガス等

項目		地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	工事用車両の走行により発生する温室効果ガスの発生量 （二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン）	対象事業実施区域の周辺	「地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・実施マニュアル」を参考にして発生量を予測	工事中の全期間
評価	工事用車両の走行により発生する温室効果ガスの発生量 （二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン）	温室効果ガスの排出量が事業者により実行可能な範囲で抑制されているかについて、見解を示す		

調査等の手法（温室効果ガス等：存在・供用）

・ ばい煙等の発生、自動車等の排出ガスに伴う温室効果ガス等

	項目	地域・地点	基本的な手法	時期等
予測	計画施設の稼働により発生する温室効果ガス等の発生量 （二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン）	対象事業実施区域	「地方公共団体実行計画（事務事業編）策定・実施マニュアル」を参考にして発生量を予測	計画施設の稼働が定常状態に達し、温室効果ガスの排出量、削減量が適切に把握できる時期
	廃棄物運搬車両の走行により発生する温室効果ガス等の発生量 （二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン）	対象事業実施区域の周辺		
評価	計画施設の稼働、廃棄物運搬車両の走行により発生する温室効果ガス等の発生量 （二酸化炭素、一酸化二窒素、メタン）	温室効果ガスの排出量が事業者により実行可能な範囲で抑制されているかについて、見解を示す		

以上で説明を終わります。
ご清聴ありがとうございました。

